

北海道支部「気象講演会」の報告

北海道支部では、活動の一環として地域の人々に気象についての理解を深め興味を持っていただこうと毎年1回、道内各地を巡回して気象講演会を開催しています。

今年度は北海道最北端にある稚内市で開催しました。講演当日は、前日から冷たい雨が降り続くという生憎の天気にもかかわらず82名もの多くの方が参加されました。

テーマ：「宗谷地方の強風」

～身を守る知恵と生かす知恵～

日時：平成17年10月8日（土）

13時00分～17時00分

場所：稚内総合文化センター 小ホール

演題と講演者は以下のとおりです（敬称略）。

1. 宗谷地方の暴風雪について
瀧田 芳信（稚内地方気象台技術課）
2. 暴風をもたらす低気圧や台風
遊馬 芳雄（北大大学院理学研究科）
3. 宗谷海峡の流れを測る
江淵 直人（北大低温科学研究所）
4. 風力を利用した水素製造
内山 政弘（(独)国立環境研究所）

今回の講演会では、前半に災害をもたらす強風に関して冬の暴風雪、夏の台風について事例をもとに講演し、後半では少し違った角度から、稚内付近の気象と密接な関係にある宗谷海峡付近の海流に関する話題、風を災害としてではなく資源として活用する話題を取り上げました。

過去に暴風雪による災害の経験や地域の身近な話題、未来のエネルギーの話など興味のある話題が多いことから、参加者から質問が相次ぎ、予定の時間を少々オーバーしました。

参加者のアンケート結果によると、参加者は会社員や公務員が多く、稚内市以外からも多数の参加者がありました。

稚内市では、こういう催しには人が集まりにくいといわれていましたが、大勢の参加者があり成功裡に無事終了することができました。

これは、共催である稚内地方気象台の広報活動が多いに力を発揮したものと思われま（参加者の1/3がポスター・チラシで講演会を知った）。

最後に講演をいただいた講師の方々及び運営に関わった稚内地方気象台の職員の皆様、ご後援をいただいた各機関に対して厚く御礼を申し上げます。